

独自のNK細胞培養技術と樹状細胞培養技術に

支えられた体にやさしいがん治療

患者様お一人おひとりに

最適で優しいがん治療をめざします

我々のがん治療の基本方針は、副作用が少なく効果が期待でき、からだの回復を促す治療をご提供することです。それは、がんとの闘いは通常は長期戦であり、手術・放射線治療・抗がん剤治療などのからだに負担になる標準的な治療とも併せて使える治療が必要だと思うからです。そのために当科では免疫細胞療法に加えて温熱療法（ハイパーサーミア）・高濃度ビタミンC点滴療法・低用量化学療法の併用も必要に応じておこなっています。また、陽子線治療やホウ素中性子捕捉療法(BNCT)などの専門施設と専門家をご紹介することもおこなっています。

これらの治療で簡単ながんが消えるわけではありません。しかし、我々は常に改善を加え科学的に検証した免疫細胞を準備して治療に取り組んでいます。それらの成果の一部は特許取得・論文・学会発表などで発表しています。

http://bij-net.com/doc_info.html

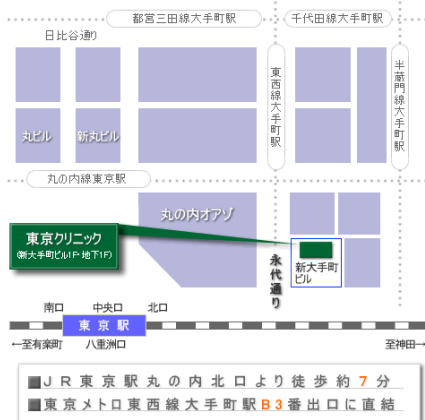
また、効果的な治療をおこなうためには、がんが見つかった時や再発予防を考える時に相談していただくことが一番です。

がんと診断されてしまったら、標準的な治療に併用して免疫細胞療法やハイパーサーミアをどのタイミングで組み合わせるのが有効かを是非一度ご相談にいらっしやってください。

東京クリニック 副院長・免疫温熱治療担当
照沼 裕

東京クリニック TEL:03-3516-7165 (直通)

FAX:03-3516-7166



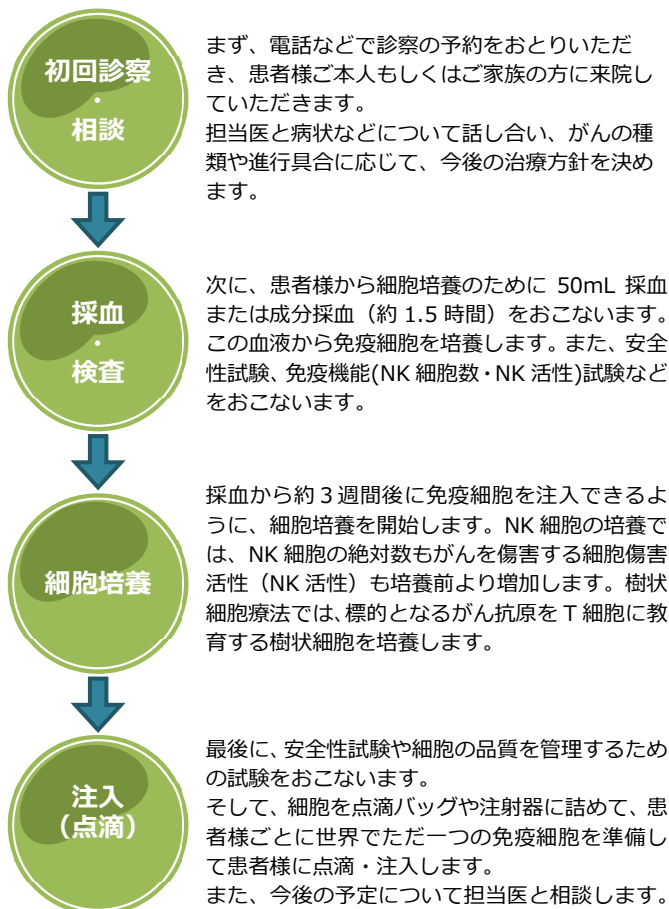
● 免疫細胞療法 治療費 [消費税は含みません]

NK細胞療法などのリンパ球療法	¥250,000	1回
NK細胞&樹状細胞(DC)療法	¥400,000	1回
樹状細胞(DC)療法のみ	¥200,000	1回
胸水・腹水からのTIL療法	¥200,000	1回

50mL採血をおこなう場合には別途10,000円がかかります。
成分採血をおこなう場合には別途30,000円がかかります。

初診料、検査料、添加ペプチドなどは別途かかります。
外国人患者は別料金になります。

初回診察(相談)から治療までの流れ



【ご案内】免疫細胞療法について

新たな希望の種 芽吹く

医療法人財団健貢会 東京クリニック
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル
TEL:03-3516-7165

FAQ 免疫細胞療法とは

Q1 免疫細胞療法とはどのような治療ですか？

A. 低下した免疫力（自己治癒力）をできるだけ高め、がん細胞を排除する、からだにやさしい治療法です

“免疫”とはわたしたちが持っているがん細胞やウイルス感染細胞をみつけて排除する生体の防衛機能です。がんを発症されている方の体内は健康な方に比べると免疫環境が悪く、免疫細胞が活動しにくい状態になっています。つまり、このような体内環境では免疫細胞を十分に増やすことも活性化することも難しい状態といえます。そこで、患者様の免疫細胞を一旦体外へ取り出し、細胞にとってベストな環境で数と質を最大限まで高め、その免疫細胞をもう一度体内に戻し、がん細胞を排除する力を取り戻すことが、“免疫細胞療法”です。自己由来の細胞ですから抗がん剤のようなひどい副作用はなく、からだにやさしい治療法です。

Q2 どんなときに免疫細胞療法ができますか？

A. どんなタイミングでも治療できますが、その目的が違ってきます

タイミング	目的
健康な時	発がん予防
治療でがんが消えた後	がんの再発予防
化学(放射線)療法との併用時	相乗効果、副作用軽減
緩和医療の時	進行遅延とQOLの改善

上記のように全てのタイミングで治療が可能です。免疫細胞療法のタイミングとしてお勧めするのは、手術や放射線治療などでがんを消失させた後、再発予防としておこなうことです。また、がんで弱った免疫力を強化することも可能です。

Q3 どんながんでも治療できるのですか？

A. 一部の血液のがんを除き、ほとんどのがんが治療可能です。自己免疫疾患の方には制限があります

免疫細胞療法ではNK細胞やT細胞などのリンパ球を体外で培養します。したがって、NK細胞やT細胞ががん化した血液がんの一部ではおこなうことができません。また、自己免疫疾患の方は病状が悪化するおそれがあるので、投与する細胞数や種類に細心の注意が必要です。自己免疫疾患が現在活動性である場合には対応できないこともあります。それ以外ではほぼ全てのがんで治療をおこなえます。詳しくは担当の医師にご相談ください。

Q4 お勧めの免疫細胞療法はありますか？

A. NK細胞療法、樹状細胞療法、TIL療法などを中心にして治療します

免疫細胞の種類	特徴
NK細胞	がん細胞やウイルス感染細胞を最も広く強く傷害するリンパ球
樹状細胞 (DC)	抗原特異的な細胞傷害性Tリンパ球 (CTL) を誘導する細胞
腫瘍浸潤リンパ球 (TIL)	胸水・腹水・腫瘍摘出組織に含まれるリンパ球を増殖・活性化させたCTLを多く含むリンパ球

NK細胞療法の培養では、ガンマデルタT細胞、アルファベータT細胞、NKT細胞なども増殖・活性化しています。これらの細胞を使って、患者様の状態や現在おこなっている治療（手術・放射線治療・化学療法）に合わせて、免疫力を活性化させるがん治療をおこないます。また、NK細胞は、がん治療で低下した免疫力を補い、ウイルス感染症などから体を守ります。

Q5 副作用はありますか？

A. 抗がん剤の治療のようなひどい副作用は報告されていません。ただし熱が出る方はいらっしゃいます

今までのがんの治療法は①外科手術、②放射線治療、③化学療法という三大療法が中心でした。これらの治療法の重要性は今も変わりません。しかしこれらは体に負担が大きく、強い副作用など患者様にとってつらいことがしばしばです。一方、免疫細胞療法は自己由来の免疫細胞を用いるため、とてもからだにやさしい治療法といえます。副作用として時に悪寒と発熱が起こることがありますが、これは、免疫が働き出す時におこる反応の一つです。

Q6 治療のスケジュールは？

A. 培養開始から約3週間後が培養細胞を点滴するのに最適です

採血後、約3週間かけてNK細胞を増殖・活性化します。それを点滴で体内に戻します。樹状細胞は1週間で準備できますが、NK細胞と同時に点滴することでより効果があがると考えられます。そのため点滴するタイミングは同時期としております。成分採血の場合には数回分の治療に必要な細胞を一度に採血して、投与間隔を相談します。下記の図は一例で、実際には抗がん剤や放射線治療との併用のタイミングなどを考慮して、投与の間隔や回数を検討します。

